

藤田宏先生を送る

増田久弥（数学教室）

有名な受験参考書「大学への数学」の著者として先生のお名前は受験生であったころから存じあげておりました。直接お顔に接したのは、当時吉田耕作先生のご指導の下に関数解析と偏微分方程式を勉強いたしておりました修士2年のときであります。先生はちょうど吉田先生によってつくられた半群の解析的理論、作用素の分数べきの理論をナビエ・ストークス方程式に見事に適用し大きな成功を収めておられた時期でした。講義は先生御自身のお仕事の解説でして実に気迫のこもった名講義に多くの聴衆は深い印象を受けまし

た。私自身ナビエ・ストークス方程式が私の主要な研究テーマのひとつとなりました。最初の講義でナビエ・ストークス方程式の物理的背景を説明された後この方程式に関する数学的研究が世界的にどうなっているか、の鳥瞰図を示され「この分野は大切だがほとんど研究されていない」とかコメントをつけられました。この講義の後まもなく出版された論文は専門家はもとより多くの数学者に影響を与えました。

当時常微分方程式を専門として現在は無限次元力学系の大家である D. Henry はその著書の序

文の冒頭で “I read the beautiful paper of Kato and Fujita on the Navier-Stokes equations and was delighted to find that, properly viewed, it looked liked like an ordinary differential equation ……” と無限次元力学系を研究するようになった動機を間接的に述べております。

その後、先生は熱方程式の解の爆発の問題、近似計算—特に有限要素法—の研究にすすまれてその研究はいまでは古典となっておりその後の大発展の契機となりました。応用数学のための日本ではじめての雑誌 Japan Journal of Applied Mathematics の創刊など日本の応用数学の興隆にもたいへん情熱をかたむけられ大きな道をつくられました。日本数学会の理事長として数学全体の研究体制の整備にも尽力されました。

また数学教育の重要性を深く認識されこの方面

にたいしても国際数学教育学会の日本代表として活躍されるなど国際的視野にたっのご見識は数学教育関係者の中で重んぜられ行政に反映されているとうかがっております。

現在理学部長として大学全体の行政、特に新しい入学試験制度の確立という困難な問題において大変に尽力されて、ここにおきましても道をつくられておられます。

先生は個人的には大変情のあつく浪花節的などころがあります。興に乗るとドイツ・リートをお歌いになったり、マージャンにこってFMC（フジタ・マージャン・クラブ）を結成されたりしました。

我々学生の前に火の玉となって現われた先生がまた火の玉となって理学部を去ってゆかれる。

先生、どうぞいつまでもお元気で。